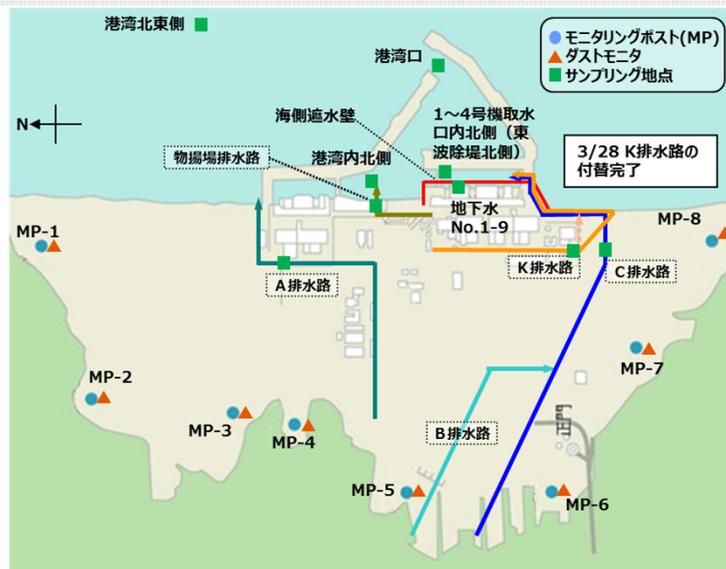
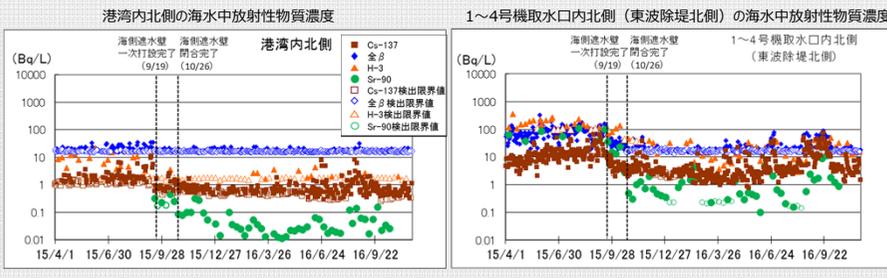


- 前回 (10月27日) 以降のデータ公開数は約10,000件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約10,000件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト (粉じん) 濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し (2015年10月5日) 以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、本年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了しています。2号機では原子炉建屋周辺の路盤整備やオペレーティングフロアへのアクセス構台の設置工事、3号機では原子炉建屋オペレーティングフロアへの遮へい体設置工事を実施中です。11月7日にMP3付近の連続ダストモニタで発生した高警報については、当該ダストモニタ付近における大気中の天然核種による影響と推定しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。また、ダスト濃度監視においては、過去に砂塵の舞い上がりの影響があったMP7周辺のフェーシングの実施やMP8周辺環境の整備・飛散防止剤の散布を実施済みです。天然核種による影響を抑制するために、ダストモニタの測定時間の最適化も検討しています。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向
先月以降、降雨時に一時的なセシウム137濃度の上昇が見られる場合もあるものの、低い濃度を維持しています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。

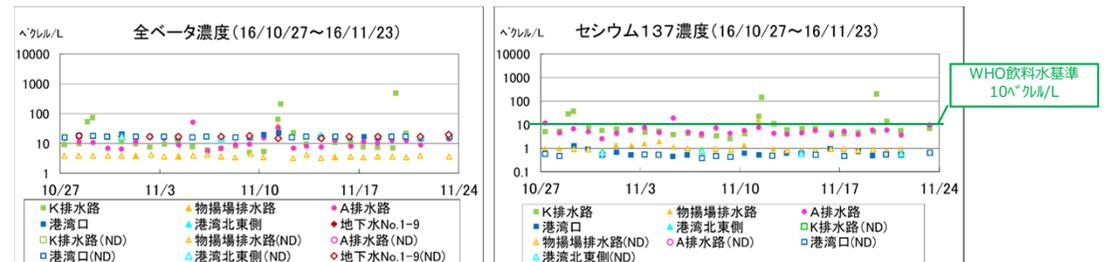


TEPCO データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、降雨による、セシウム濃度、全β濃度の一時的な上昇が発生。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。

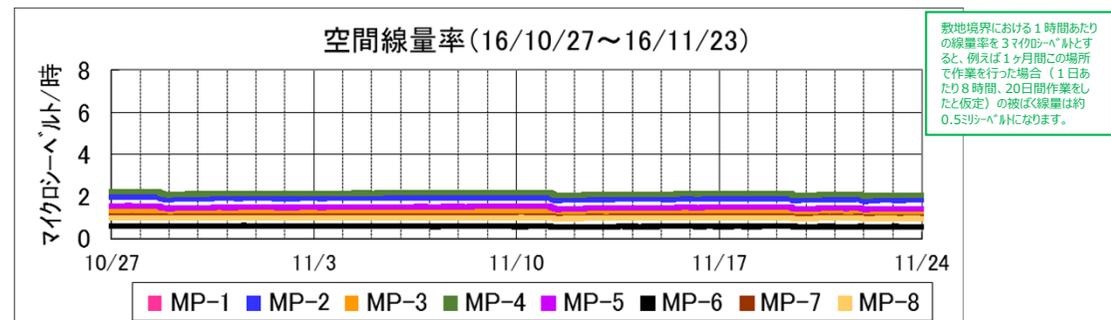
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。
- 11/22は津波警報発令のため欠測。

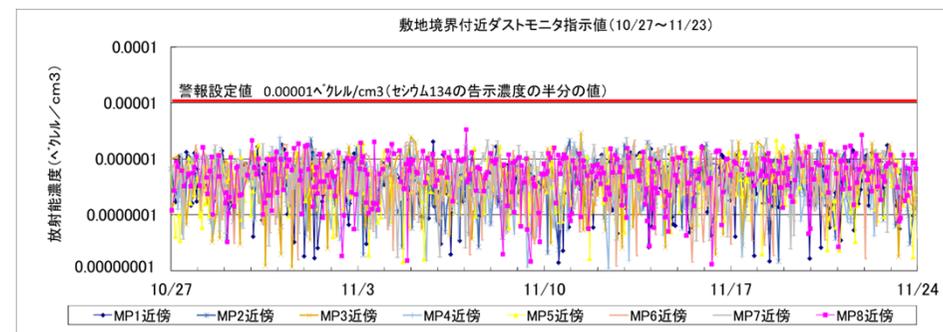
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

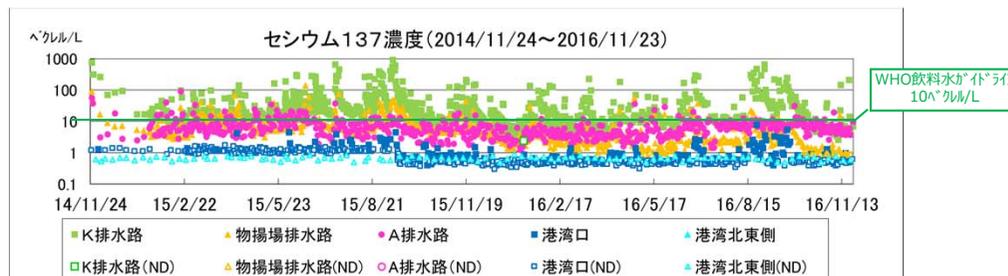
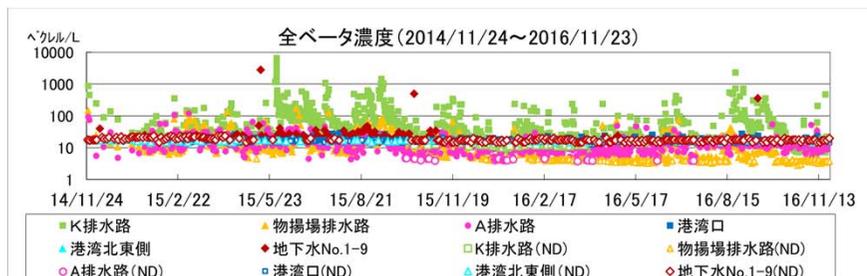


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

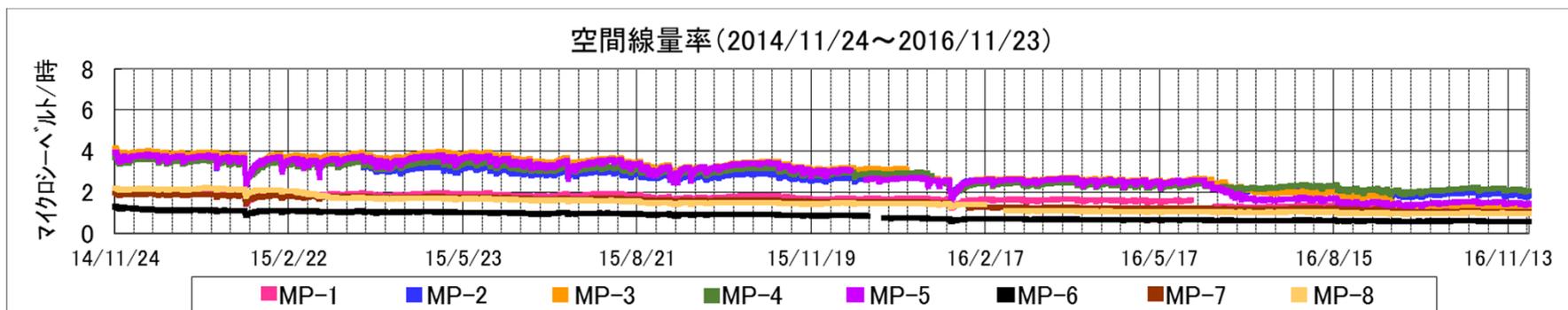
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

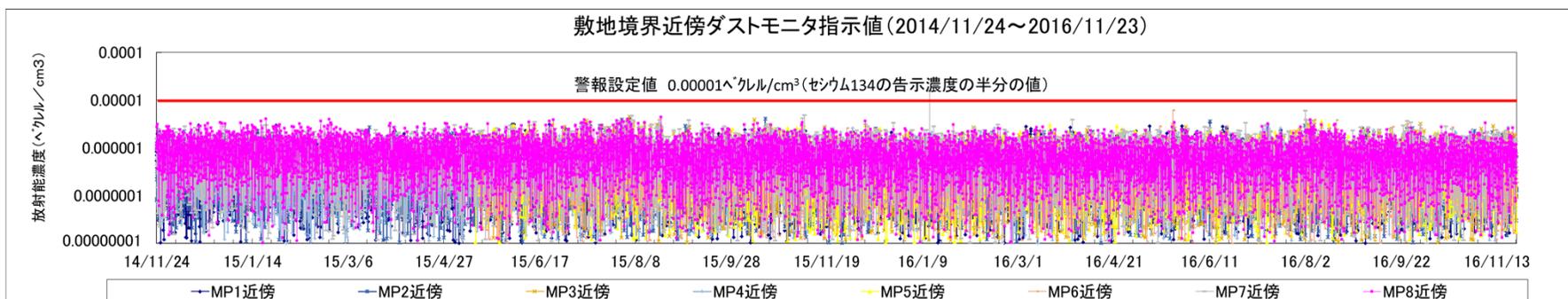
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



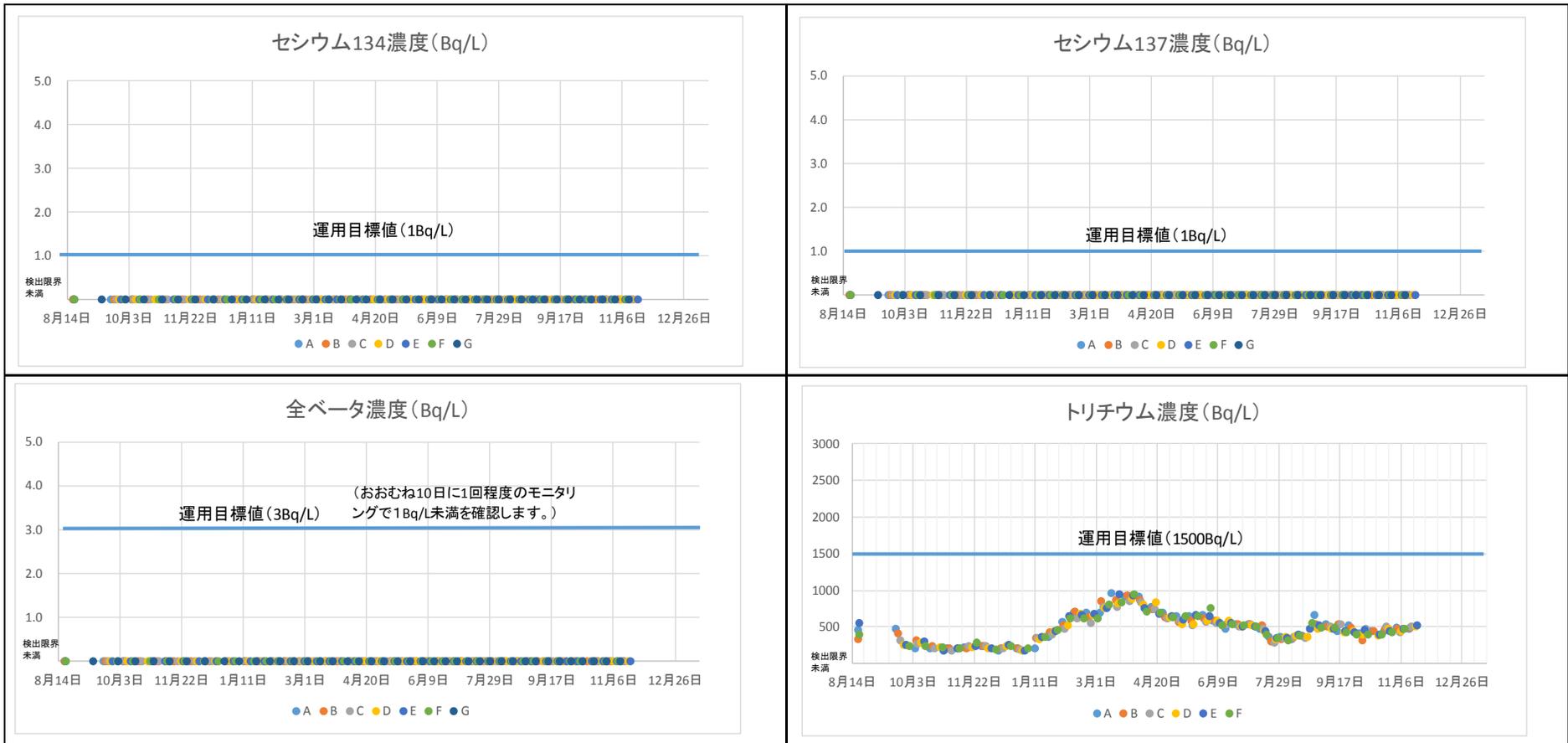
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年11月23日までに合計279回、228,773m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

1号機壁パネル取り外し後のダスト飛散抑制対策について

壁パネル取外し作業の実施期間中、1号機オペフロ上の作業に起因するダストモニタの警報が発生することはありませんでした。今後、新たに防風シートを設置し、引き続き、壁パネル取外し時と同様に飛散防止剤の散布や緊急時に備えた散水の準備を整え、監視を継続し、地元をはじめとした社会の皆さまに安心していただけるよう作業を実施してまいります。

壁パネル取り外し後の飛散抑制対策

今後のガレキ撤去等の作業においても同様に定期的に飛散防止剤の散布を実施し、緊急時に備えた散水の準備を整え、万全の態勢で作業を継続いたします。

- ◆ 飛散防止剤の定期散布
 - ・ 月に一度、定期的に飛散防止剤散布を実施します。
- ◆ 緊急散水
 - ・ 1号機オペフロ上の作業に伴いダストモニタの警報が発生した場合、散水を実施します。
 - ・ 1号機オペフロ上以外のダストモニタの警報が発生した場合も、作業や風や各ダストモニタの状況のみを必要に応じ、散水を実施します。
 - ・ 散水設備が、健全に稼働することの確認のためにも、週に1~2回定期散水を実施します。
- ◆ 予防散水
 - ・ 風速25m以上の予報が出た場合、散水を実施します。

飛散防止剤散布の様子

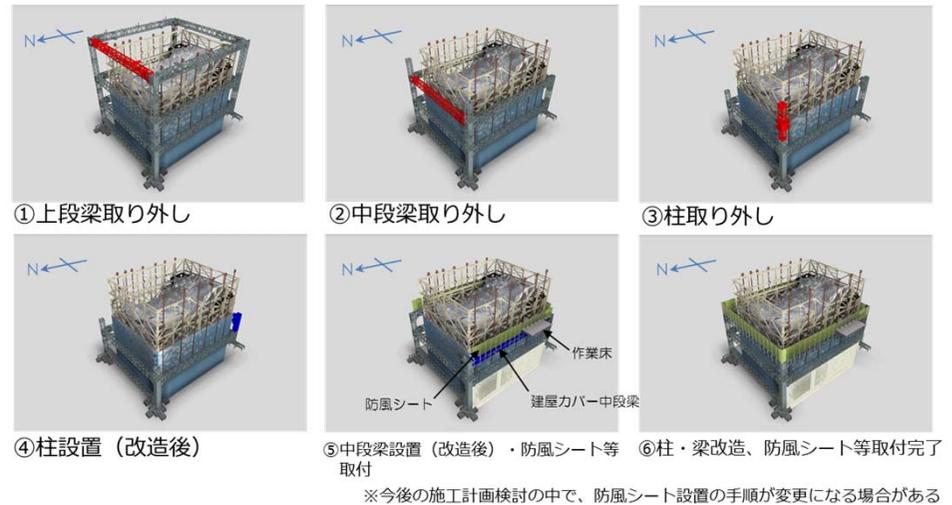


散水(毎週2回実施)の様子

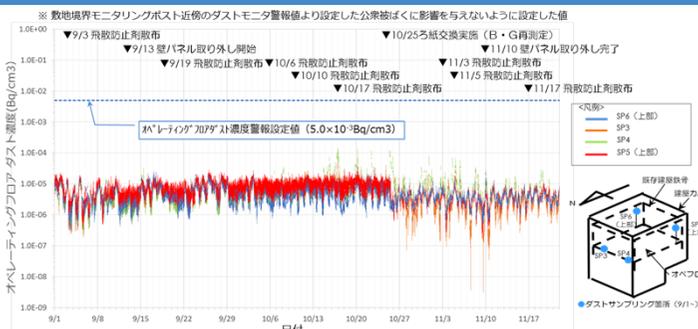


防風シートの設置

ダストの飛散抑制対策として、2017年3月頃建屋カバーの柱・梁を取り外し、取り外した柱・梁の改造をした上、建屋カバー中段梁に防風シート等を取り付けます。



壁パネル取り外し時の1号機オペフロのダスト濃度



解体した壁パネルの保管

取り外したカバーは裁断してコンテナで安全に保管しています。

壁パネルの裁断作業



裁断したパネルをコンテナに格納する様子

